

指導される皆様へ

本教材は、次のような特徴を持っています。まず、複数の読み方を学習する漢字については、各回で学習する読み方は原則として1つだけであること¹。そして、書き方の学習は、300字のうち185字に限定していることです²。そのため、指導される方は、複数の読み方のうちどれがいつ提出されるのか、書き方を学習する漢字なのか、学習する漢字ならそれはいつなのか、などを正確に把握しておかなければなりません。

こうした特徴は、学習者の負担に配慮したことによるものですが、指導される方は、何が既習で何が未習なのか、分かりづらいとお感じになるかもしれません。そこで、別冊の「勉強する漢字の読み方」(3～6ページ)にも読み方と書き方の提出回を示してありますが、より分かりやすく一目で確認できるように、「読み方と書き方の提出回一覧表」を作成しました。授業時に新出の読み方の学習でほかの読み方が既習かどうか確認したいとき、テストでほかの読み方を出題してよいのか、書き方の問題も出せるのかを判断したいときなどにお使いください。

¹ 例外的に「入」(第11回(1))「危・風」(第12回(2))「空」(第14回(2))は一つの回で複数の読み方を学習します。

² 185字のほかに「々」も書き方を勉強します。

「読み方と書き方の提出回一覧表」の見方と利用

1 一覧表の見方

この一覧表には、『新完全マスター漢字 日本語能力試験N4』で学習する漢字の「読み方」及び「書き方」が提出される回が示してあります。

表の見方は、次のとおりです。

(1) A列は「回（第1～15）」、B列は「その回の（1）（2）」を示す。

第1行に漢字番号、第2行に漢字を示す。漢字は常用漢字表の順（即ち、音読みの五十音順）である。

各漢字について読み方や書き方をどの回で学習したか（するか）を見たいとき、第2行の漢字とA列、B列を合わせて見れば分かるようになっている。

A1		fx									
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
1			1	2	3	4	5	6	7	8	9
2			悪	安	暗	以	医	意	一	引	員
3		既習読み							イチ・ひと／ひと・一日 くつしたち		
4	回	(1)(2)									
5	1	(1)									
6	1	(2)									
7	2	(1)									
8	2	(2)									
9	3	(1)	ア	くら							
10	3	(2)	やす								
11	4	(1)									
12	4	(2)						イ			
13	5	(1)									
14	5	(2)									
15	6	(1)									イン
16	6	(2)	わる								
17	7	(1)									
18	7	(2)									
19	8	(1)									

(2) 第3行は、この教材ではN5レベルで既習として扱っている読み方を示す（本教材xviページの「読めますか・書けますか」に載せてあるもので、熟字訓を含む）。さらに、書き方

も既習扱いとするものは、その列をブルーで色付けしてある³。

- (3) 第 5 行以下については、(a) 漢字の初出時に読み方と書き方を同時に学習する場合は当該のセルを濃いウグイス色、(b) 読み方だけを学習する場合は薄いウグイス色で色付けし、読み方が入れている。そして、その回以降、それぞれの色で列が色付けしてある。さらに
- (c) 初出では読み方だけを学習し、2 つ目の読み方の学習時に書き方も学習する場合は、書き方を学習するまでは薄いウグイス色、書き方を学習してからは濃いウグイス色で色付けしてある。

- (4) 具体的に例を挙げると、以下のとおりである。

(a) 初出時に読み方と同時に書き方も学習する場合

例 1) 漢字番号 38 「学」(AN 列) …第 2 回 (1) で「ガク」の読み方と書き方を同時に学習するので、これ以降 AN 列は濃いウグイス色で色付けしてある。

例 2) 漢字番号 22 「音」(X 列) …第 5 回 (2) で「オン」の読み方と書き方を同時に学習するので、これ以降 X 列は濃いウグイス色で色付けしてある。さらに、第 11 回 (1) で「おと」の読み方を学習するので、X 列 25 行目のセルに「おと」の読み方が入れている。

(b) 読み方だけを学習する場合

例 3) 漢字番号 1 「悪」(C 列) …第 6 回 (2) で「わるい」の読み方を学習する。本教材では書き方は学習しないため、これ以降 C 列は最後まで薄いウグイス色で色付けしてある。

例 4) 漢字番号 94 「合」(CR 列) …第 5 回 (2) で「あう」の読み方を学習する。本教材では書き方は学習しないため、これ以降 CR 列は最後まで薄いウグイス色で色付けしてある。さらに第 6 回 (2) で「ゴウ」の読み方を学習するので、CR 列 16 行目のセルに「ゴウ」の読み方が入れている。

(c) 初出では読み方だけを学習し、2 つ目の読み方の学習で書き方も学習する場合

例 5) 漢字番号 70 「見」(BT 列) …第 2 回 (2) で「みる」の読み方を学習する。書き方は学習しないため、BT 列は第 2 回 (2) 以降薄いウグイス色で色付けしてある。第 13 回 (2) で「ケン」の読み方と書き方を学習するので、これ以降濃いウグイス色で色付けし、BT 列 30 行目のセルに「ケン」の読み方が入れている。

2 表の利用のしかた

例えば、ある漢字が書き方も学習しているかどうかを確認したいなら、その漢字の列が濃いウグイス色になっているかを見てください。ほかの読み方が既習なのかどうか、あるいはほかの読

³ 「金」「年」「時」「分」の 4 文字については、字形の複雑さ等を考慮し、本教材でも書き方を学習するようになっているため、ブルーの色付けはありません。

み方を今後いつ学習するのかを確認したいなら、その漢字の列の何回目に読み方が入っているかを見てください。

授業やテスト作成の利用では、例えば、例 5 の漢字番号 70 「見」は、第 2 回から第 12 回の間は「花見」「見る」「見える」「見せる」の読み方しか問題に出すことはできません。しかし、第 13 回以降は、「見る」「見える」「見せる」は書き問題として出すことができます⁴。

例 2 の漢字番号 22 「音」は、第 11 回 (1) で「おと」の読み方を学習するとき、『音楽』の『音』と同じ漢字ですね。書き方を覚えていますか」と働きかけ、場合によってはもう一度書く復習をするといいいでしょう。「大きなおとがしました」のような書き問題を出すこともできます。

第 6 回 (2) で例 4 の漢字番号 94 「合」の 2 つ目の読み方「ゴウ」を学習するとき、『試合』『合う』と同じ漢字ですね」と注意を向けさせてもいいです。ただし、それが学習者の負担になるようなら、第 6 回 (2) では「ゴウ」の読み方をしっかり覚えることを優先し、「まとめましょう」で複数の読み方のまとめをするまで、あえて触れないでおいてもいいと思います。

クラスや学習者の状況に応じて指導されるとき、この一覧表を役立てていただければ幸いです。

⁴ 「花見」は書き問題では出せません。なぜなら漢字番号 26 「花」は読み方のみを学習する漢字だからです。熟語の場合は、組み合わせる漢字の書き方を学習しているかどうかを確認してください。